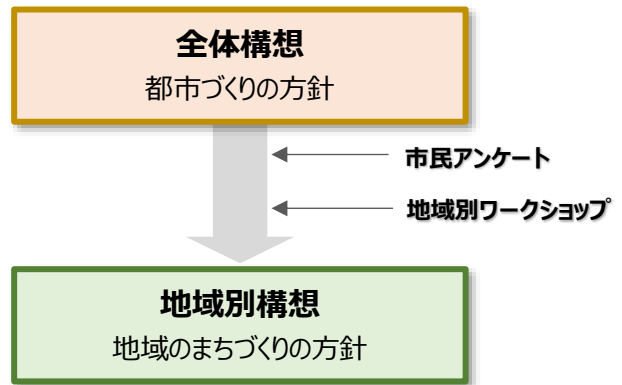


**地域別構想は、市内9小学校区に地域を分け策定します。
今回は、構成案として西小学校区の構成を例としてお示
しております。**

**内容については、資料1-3都市づくりの方針との整合により変更となりますので、今
回は構成についてのご意見、ご指摘がありましたらお願いします。**

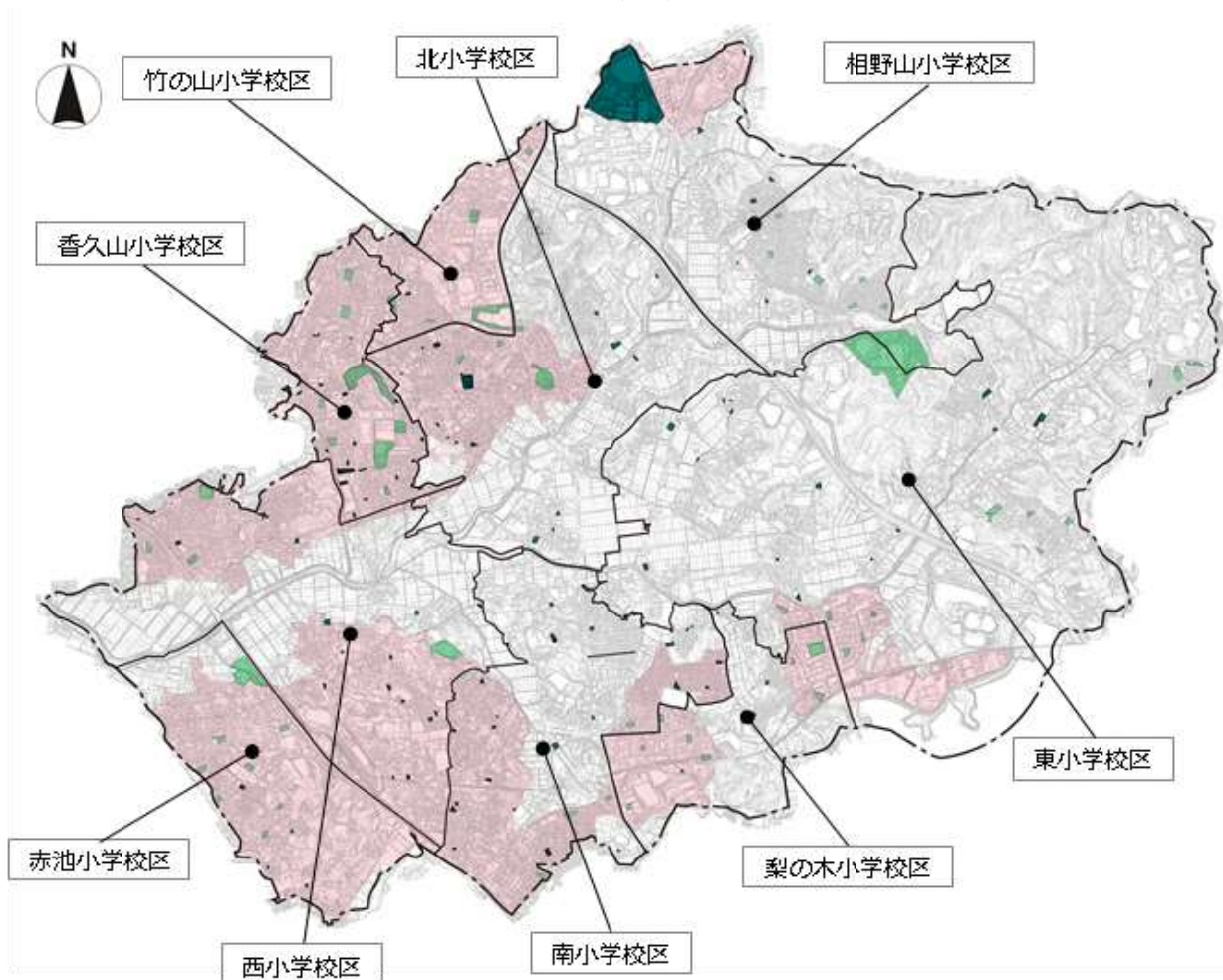
地域別構想は、全体構想で示した都市づくりの方針等を受け、地域の特性やニーズに応じ、市民と行政との協働により取り組む身近なまちづくりの取組を加え、地域らしさのあるまちづくりの方針を定めます。

なお、地域別構想の検討にあたっては、「地域別ワークショップ」を開催し、地域住民とともに、地域のまちづくり取組アイデアをとりまとめました。また、ワークショップに先立ってまちづくりへのアンケート調査を行い、市民意向を把握しました。これらの意見等を参考としながら、全体構想との整合性や実現の見通しを踏まえて、行政計画として位置付ける項目を抽出・整理し、地域のまちづくりの方針として、とりまとめました。



地域区分は、地域の実情を踏まえらるるよう、以下の図に示す9小学校区とします。

図：地域区分



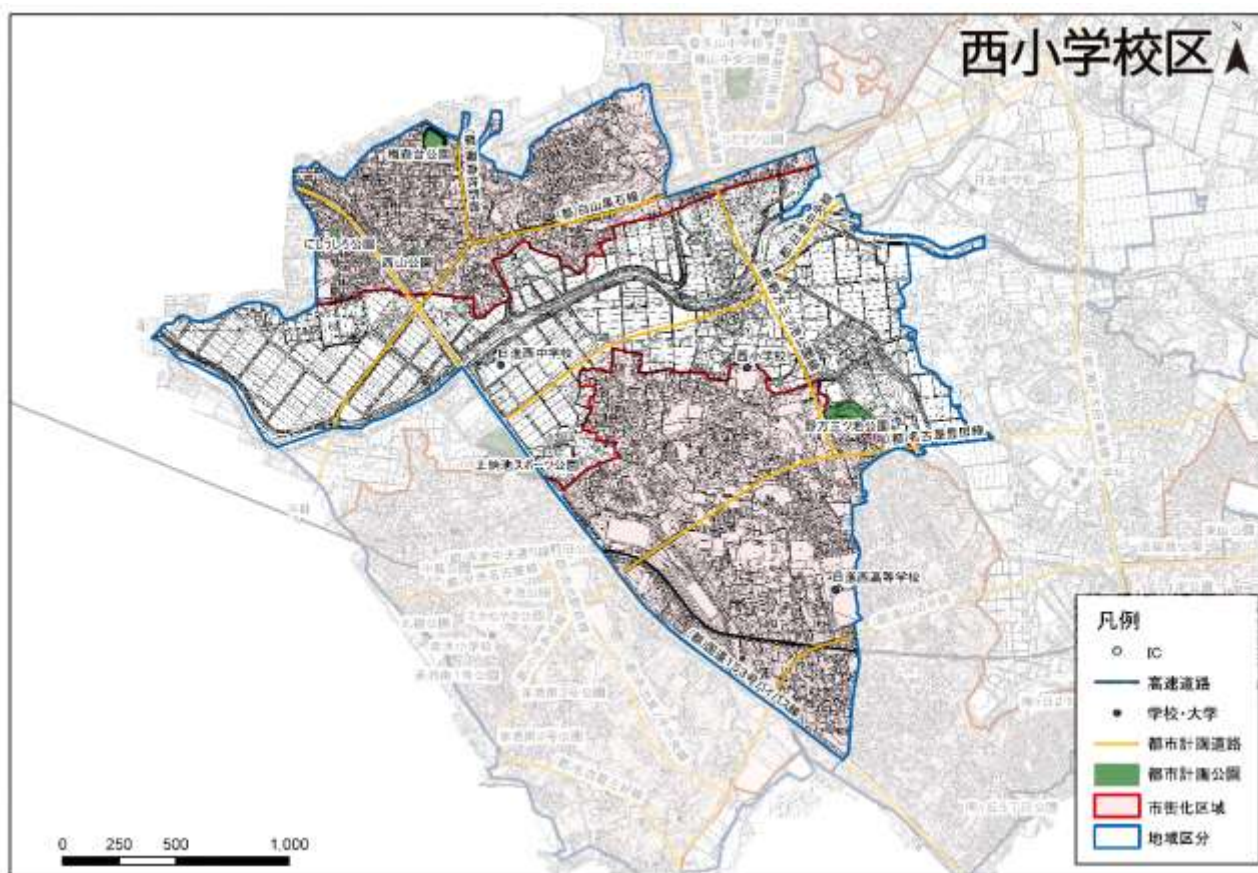
1 西小学校区

(1) 地域の概況と特性

ア データ等からみた地域の現状

地域内の市街化区域と市街化調整区域の面積は、ほぼ同じであり、市街化区域は、北部と南部に2分されており、南部は赤池駅東側の既成市街地が中心で、北部は道路等の都市基盤が整備された住宅市街地が中心となっています。市街化調整区域は、南北の市街化区域の中間にあり、東西方向に天白川が通る農地を中心とした土地利用となっています。

図：西小学校区の現況図



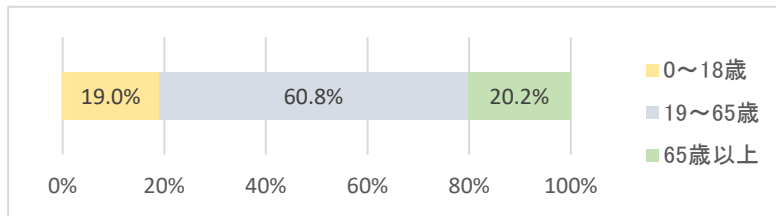
国勢調査区別にみると、市街化区域内の人口密度は、北西部の梅森台と赤池駅東側の市街地で高く中央の市街化調整区域で低い状況にあります。また、近年の人口増減数をみると、0～18歳の人口はわずかに減少しており、19～64歳及び65歳以上の人口は増加しています。地区別でみると、梅森台の一部で人口減少が生じており、その地区を含めた北部の市街化区域内の老年人口割合が高い状況にあります。

表：西小学校区の概況

面積 (ha)	476.47	市街化区域 (ha)	253.23
		市街化調整区域 (ha)	223.24
人口密度(人/ha)	27.73		
人口	H27 (人)	H31 (人)	増減率 (H27-31)
0～18歳	2,541	2,508	-1.3%
19～65歳	7,630	8,037	5.3%
65歳以上	2,378	2,669	12.2%
合計	12,549	13,214	5.3%

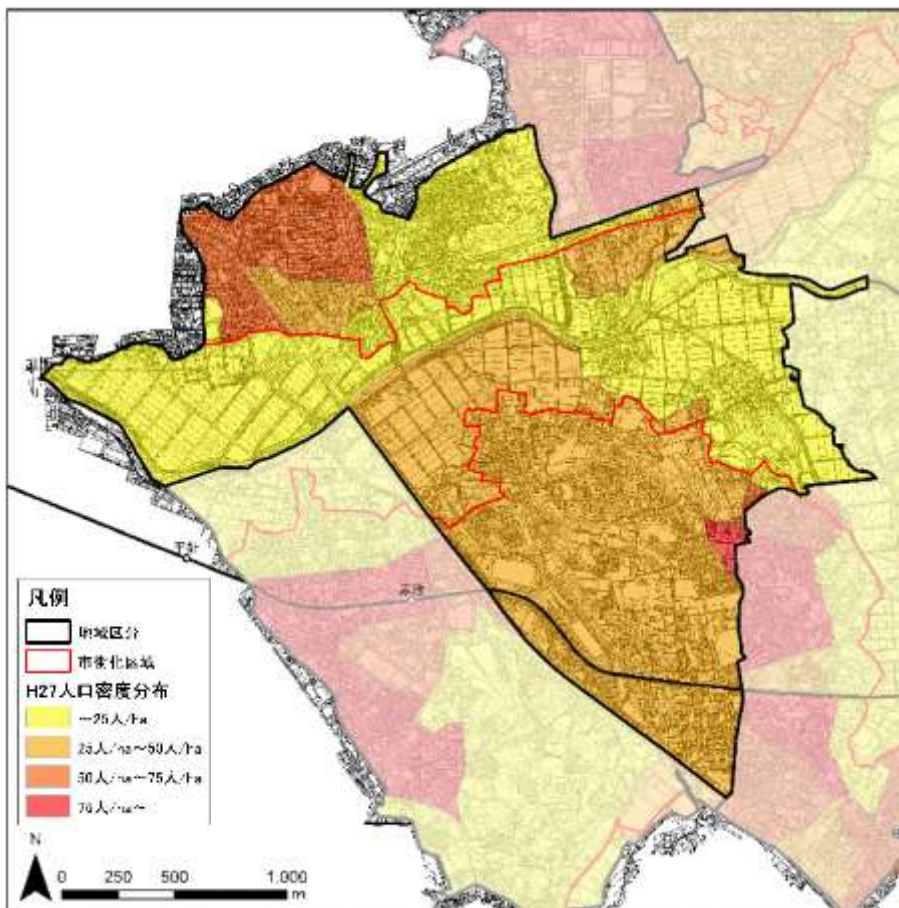
(資料：人口/にっしんの統計書 面積/図上測量による)

図：西小学校区の年齢別人口構成 (H31)



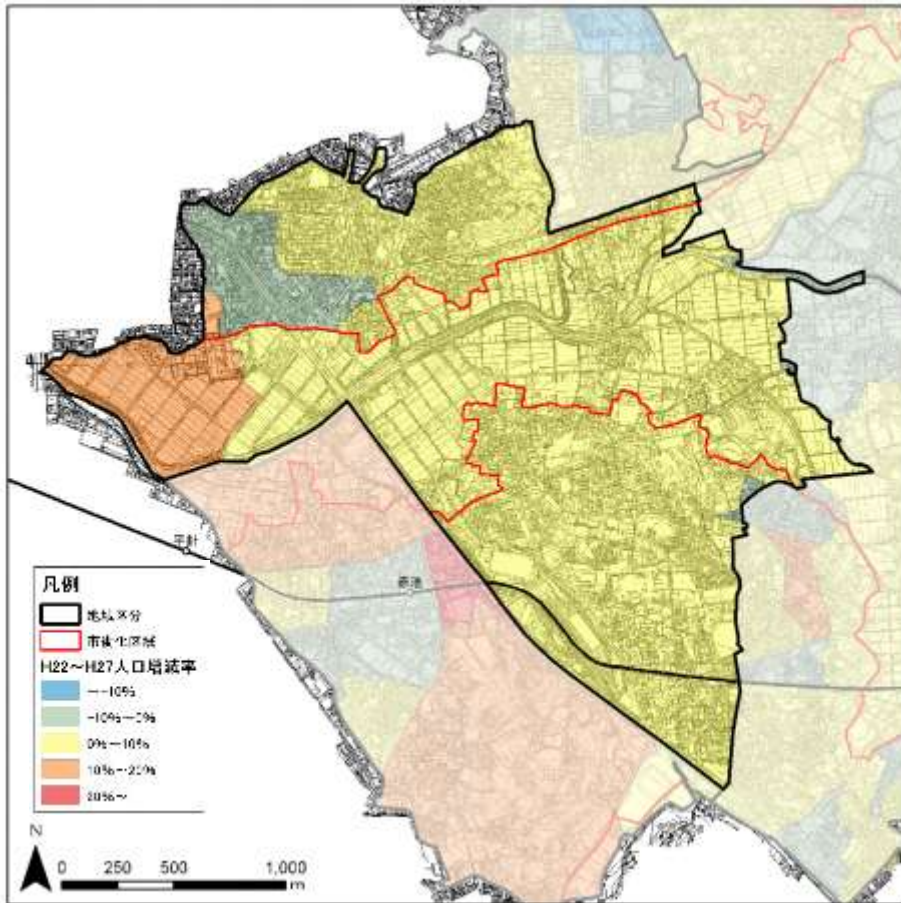
(資料：人口/にっしんの統計書)

図：H27 人口密度分布



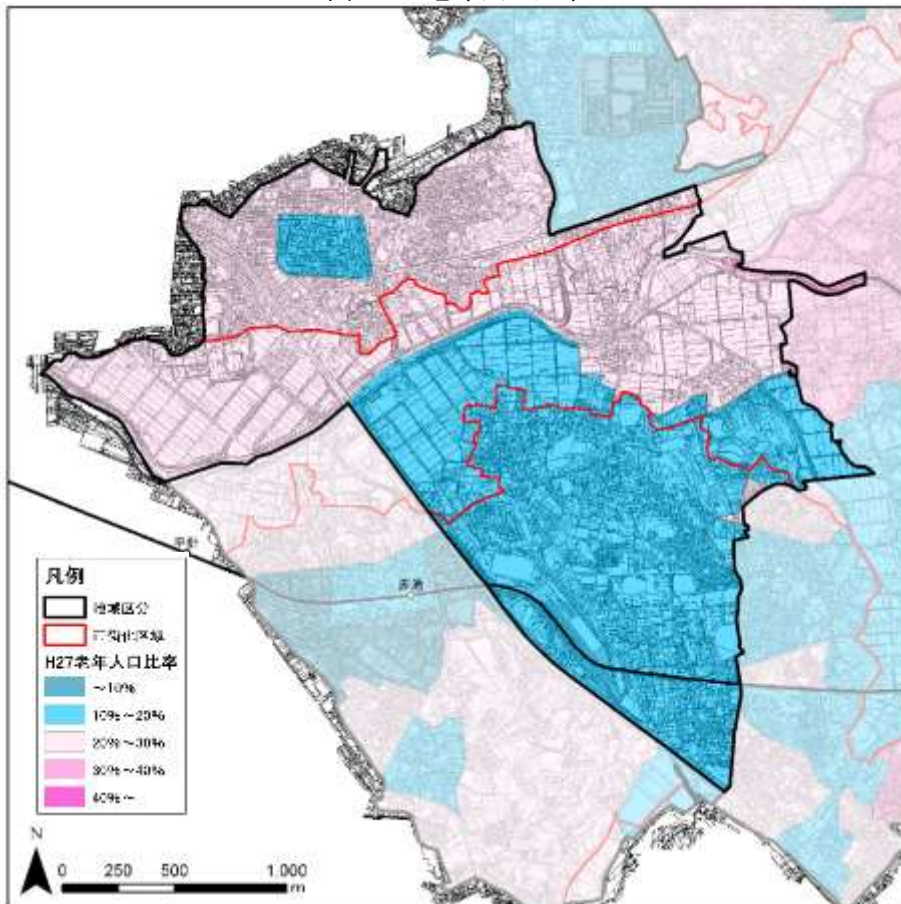
(資料：国勢調査)

图：H22~H27 人口增减率



(資料：国勢調査)

图：H27 老年人口比率



(資料：国勢調査)

イ 地域の強みと弱み（地域別ワークショップでの主な意見）

【強み（魅力・資源）】

- ・ 鉄道や幹線道路が整っており、交通の利便性に優れる。
- ・ 大型商業施設をはじめ、多くの人が集うことのできる施設が多く立地している。
- ・ 年配の方と子どものコミュニケーションがとれる等、地域のつながりがある。
- ・ 緑や川などの自然が多く、空を見渡すことができる。
- ・ 野方三ツ池公園をはじめ、多くの公園がある。 等

【弱み（問題・課題）】

- ・ 自動車の交通量が多い道路において、渋滞が多い。
- ・ 歩道や交差点等、夜間は暗く安全に通行できない箇所が多い。
- ・ 道路が狭く、通行に支障がある箇所が多い。
- ・ 歩道が狭く、砂利がはみ出し危ない。
- ・ 河川氾濫等の災害時に安心して避難できる場所がない。 等

(2) 地域のまちづくりの目標

名古屋市及び豊田市方面へつながる地下鉄・名鉄赤池駅に隣接し、幹線道路や公園等の都市基盤整備が整い、また、東西方向に天白川が流れ、その両岸には自然豊かな農地が広がり、その周囲には昔ながらの雰囲気を残す既成市街地や農業集落地があります。

そこで、本地域では、こうした地域の良好な自然環境等を活かした魅力を創出するとともに、充実した都市基盤を活かしながら、古くからある地域コミュニティを維持することにより、誰もが豊かに暮らせるまちを目指します。

(3) 将来都市構造上の位置付け

○既成市街地ゾーン

主に現在の市街化区域の縁辺部に広がる古くからの市街地においては、地区の特性に応じた土地利用を進めつつ、道路や公園等の生活基盤施設の整備・改善、低・未利用地の保全・活用等を積極的に進めることにより、良好な居住環境を有する市街地の維持・形成を図ります。

○計画的市街地ゾーン

主に土地区画整理事業等により計画的に整備され、住居系土地利用を主体とした市街地においては、本市の特徴である市街化調整区域等に広がる農業集落と調和し、日常生活を支える都市機能が充実した生活圏の構築を目指し、現在の土地利用及び居住環境の維持を図ります。

○農地・農業振興ゾーン

天白川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、本市の都市構造上の大きな特徴であると同時に、防災上の観点また都市生活（都市での暮らしやすさ）を支える良好な自然

環境の維持・保全といった観点からも、これら土地利用を一体のものとして維持していくことが重要であるため、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

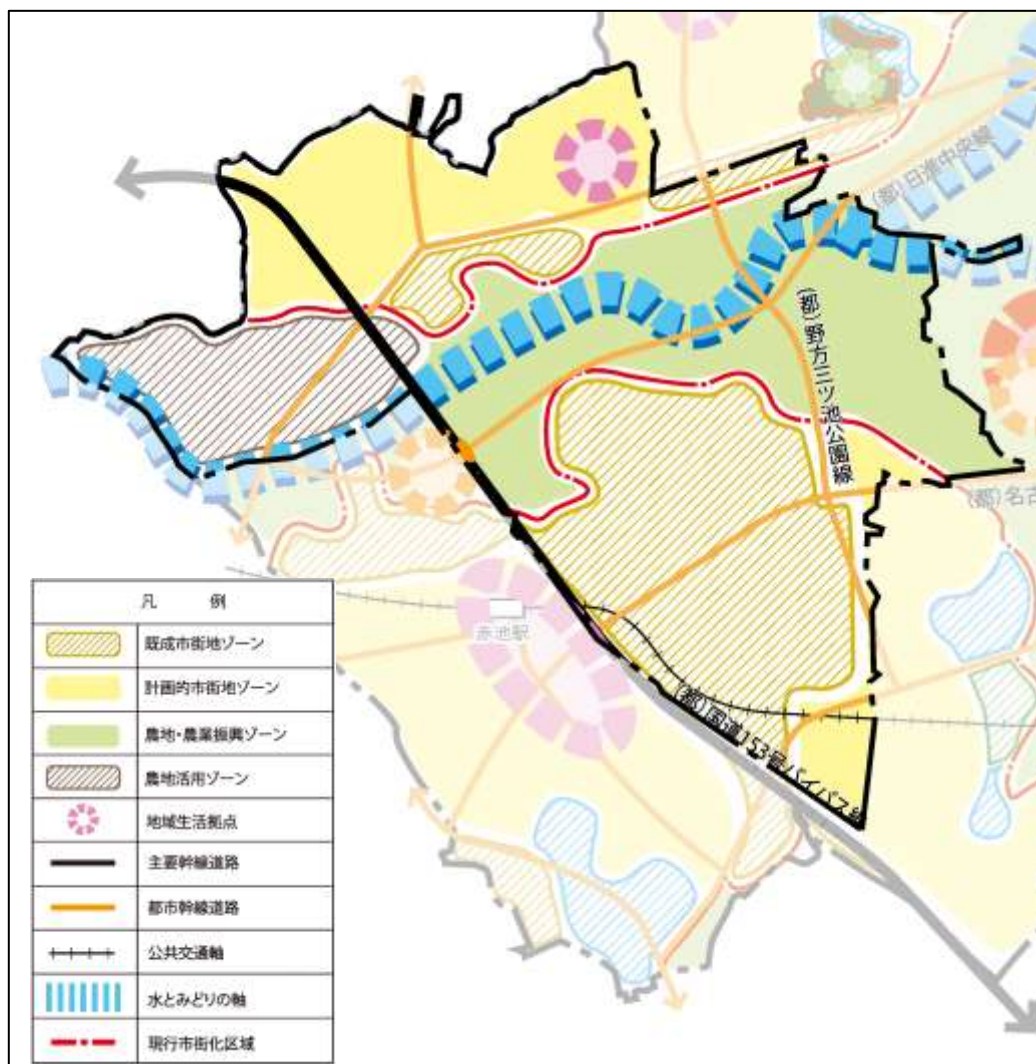
○農地活用ゾーン

(都)国道 153 号バイパス線以西に広がるまとまった農用地は市の最下流部に位置し、洪水時の防災機能等多面的な機能を有していることから保全していくとともに、特色ある農産物を活かした観光振興に寄与する土地利用の形成を図ります。

■地域生活拠点

日進香久山西部土地区画整理地区内については、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえ、生活利便施設を中心とした暮らしやすい生活圏の構築を目指します。

図：全体構想上の位置付け（西小学校区）



(4) 地域のまちづくりの方針

ア 土地利用の方針

(ア) 市街化区域

○低層住宅地区

主に土地区画整理事業等により計画的に整備され、既に低層住宅を主体とした土地利用が図られている住宅市街地については、現在の居住環境を維持しつつ、周辺の古くからの市街地や本市ならではの特色である市街化調整区域等に広がる農業集落とのバランス・調和を図るため、今後も低層住宅を主体とした土地利用を維持します。

☞ 関連する WS の取組アイデア ● 地域のコミュニティづくり

○中高層住宅地区

土地区画整理事業等により計画的に整備された地区内において、既に中高層住宅を主体とした土地利用が図られている住宅市街地については、公共交通網の利用促進や多様な都市機能の集積によるコンパクトな生活圏の構築という観点から、現在の高い人口集積を維持するため、今後も中高層住宅を主体とした土地利用を維持します。

☞ 関連する WS の取組アイデア ● 地域のコミュニティづくり

○一般住宅地区

現在の市街化区域の縁辺部（市街化調整区域との境界部）に広がる農業集落を発祥とする住宅市街地については、農業集落としてのたたずまいを残しつつ居住環境の維持・改善を図るとともに、土地区画整理事業により計画的に整備された住宅市街地については、今後も現在の住居系土地利用を主体とした土地利用を維持します。

☞ 関連する WS の取組アイデア ● 地域のコミュニティづくり

○沿道住商複合地区

(都)国道 153 号バイパス線や(都)白山黒石線沿道においては、自動車でのアクセス利便性に優れ、沿道型商業施設等の立地の優位性が高いことから、これら商業施設等を主体とした土地利用を促進します。

☞ 関連する WS の取組アイデア ● 誰もが便利な施設整備

○住工複合地区

住工複合型の土地利用を維持及び今後の土地利用動向をみながら、適切な土地利用の誘導を促進します。

(イ) 市街化調整区域

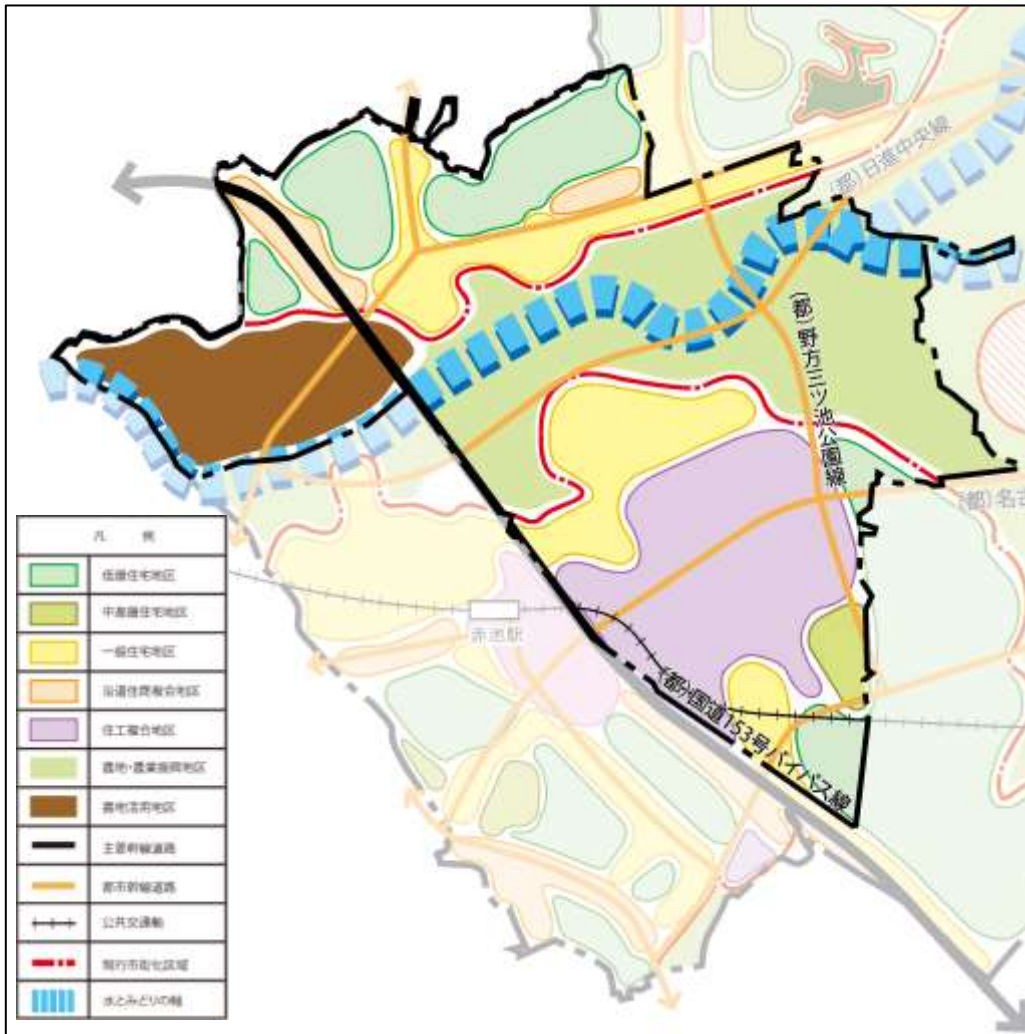
○農地・農業振興地区

天白川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、本市の都市構造上の大きな特徴であると同時に、防災上の及び都市生活（都市での暮らしやすさ）を支える良好な自然環境の維持・保全の観点からも、これら土地利用を一体のものとして維持していくことが重要であるため、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

○農地活用地区

(都)国道 153 号バイパス線以西に広がるまとまった農用地は市の最下流部に位置し、洪水時の防災機能等多面的な機能を有していることから保全していくとともに、特色ある農産物を活かした観光振興に寄与する土地利用の形成を図ります。

図：土地利用方針図（西小学校区）



イ 交通施設に関する方針

(ア) 幹線道路等

○幹線道路

将来都市構造で位置づけた現行都市計画道路や現在の国・県道等の整備・改善を図ります。老朽化した橋梁、横断歩道橋、道路舗装等については、長寿命化計画に基づき、計画的に修繕工事を行います。

○生活道路

幅員 4 m 未満の狭あい道路の拡幅整備にあたっては、地域との連携を図りながら、推進するとともに、不要な通過交通等の進入を抑制するような交通誘導施策の実施等により、安全性に

配慮した道路環境を創出します。

また、古くからの住宅団地の道路等の老朽化が進んでいるものについて、計画的な改修を行います。

☞関連するWSの取組アイデア ●歩行者優先の道路づくり

(イ) 公共交通等

○バス

バス路線については、市街地が分散構造にある本市において、市役所や病院等の公共公益施設や商業施設へのアクセス等、高齢者などの日常生活交通を確保することがより一層重要となってくることから、民間路線バスや、市内巡回バス「くるりんばす」を中心に一層の利用促進を検討します。また、「周辺市町のコミュニティバス」等との連携による広域的な移動手段の強化や新たな交通手段の導入について検討します。

☞関連するWSの取組アイデア ●くるりんばすの利用向上 ●新しい移動手段の検討

(ウ) 歩行者・自転車ネットワーク

天白川からなる「水とみどりの軸」やこれとつながる幹線道路の歩道空間を活用し、快適な移動空間を有し、市民の健康づくりにつながる歩行者・自転車ネットワークの形成を図ります。合わせて、これと連動しながら、憩いの場やにぎわい創出の場となるような“たまり空間”等の確保を検討します。

☞関連するWSの取組アイデア ●歩行者優先の道路づくり ●親水スポットの整備

ウ 公園・緑地等に関する方針

(ア) 公園・緑地等

市民の憩いの場、健康増進等に必要な公園・緑地については、施設利用の安全確保を最優先に行いつつ、緑の質を高めていきます。

☞関連するWSの取組アイデア ●公園の美化 ●公園整備 ●地域の公園利用ルールづくり ●補助事業の活用

(イ) 緑化

緑の豊かさを高めていくため、森林や農地等といった既存の緑を活用することで健全で良質な緑を維持していくとともに、市民、行政等が協働して身近な生活空間に質の高い緑を創出します。

☞関連するWSの取組アイデア ●愛着がもてる体験や取り組み●田・畑の保全だけでなく活動もセットで考える。

(ウ) 緑の保全

豊かな緑を大切にして、誰もが将来にわたり暮らしやすい生活空間を堅持していくため、後世まで残していく緑については、それらが持つ機能を最大限に発揮できるように活用しながら保全していきます。

☞関連するWSの取組アイデア ●生物多様性への配慮

エ 下水道及び河川等に関する方針

(ア) 下水道

快適な都市基盤整備を目指し、市街化の動向・見通しとの整合を図るとともに、生活環境保全に努めながら、災害時等の対策、維持管理の効率性等を検討しつつ、整備を推進します。そ

のために、下水道施設等の汚水処理施設の未普及解消に向けた整備スケジュールを含め、適切な規模で地域の実情に応じた計画を検討します。

また、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改築を実施し、施設全体を対象とした施設管理を最適化し、持続的な下水道機能確保のため、より一層効率的・効果的なストックマネジメントの促進を図ります。

(イ) 河川等

市管理の河川については、近年、想定外のゲリラ豪雨等により日本各地で大きな水害が起きていることから、本市においてもその被害を最小限にとどめるため、また長期的な都市の発展に対応するために、計画的な整備を推進します。

また、天白川については、水とみどりの軸として地域住民の交流を促進するための歩行者・自転車ネットワークとしての活用を図ります。

☞関連するWSの取組アイデア ●親水スポットの整備

オ 市街地整備に関する方針

○既成市街地の整備

主に現在の市街化区域の縁辺部に広がる古くからの市街地においては、良好な居住環境の維持・形成を図るため、地区内に多くみられる幅員4m未満の狭あい道路の拡幅整備を推進しつつ、ポケットパークや排水施設等の整備を計画的に進めます。

土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区においては、良好な居住環境を維持します。

また、アダプトプログラム制度等の推進により地域住民や企業による美化活動を促進します。

☞関連するWSの取組アイデア ●地域のコミュニティづくり

○計画的市街地の整備

日進香久山西部土地区画整理地区は円滑に事業を促進し、早期の完了を図ります。

カ 防災に関する方針

市民の生命を最大限守り、地域及び社会の重要な機能を維持するため、地域の強靱化に努めます。

大規模自然災害時には市民の財産及び公共施設、産業・経済活動に係る被害をできる限り軽減し、迅速な復旧復興を可能とするため、平時から様々な分野での取組を通じ、災害に強い地域づくりを行います。

既成市街地においては、狭あい道路の解消・改善を順次進めつつ、地域内にみられる低・未利用地等の活用を図ることにより、避難路や避難場所としての機能を有する生活道路や公園等を確保し、都市防災の強化を図ります。

☞関連するWSの取組アイデア ●防災意識の啓発 ●地域のコミュニティづくり ●公園整備

キ 景観形成に関する方針

(ア) 自然景観

本地域中央部に大きく広がる田園を主とする緑は、自然と共生した本市ならではの都市景観を構成する重要な資源であることから、これら自然景観の保全を図ります。

また、本地域を東西方向に流れる天白川については、豊かな自然環境が残るとともに都市での生活を支えるアメニティ空間でもあることから、河川沿いのみどりを保全することで、より心地よい空間へと質的向上を図ります。

☞関連するWSの取組アイデア ●愛着がもてる体験や取り組み

(イ) まちなみ景観

古くからの住宅団地においては、良好な居住環境の創出に向け、沿道緑化の促進や地区内に残る低・未利用地の保全・活用等により、緑豊かで住み心地のよいまちなみ景観の形成を図ります。

また、主に土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区や今後、面的な整備が予定されている地区においては、自然景観からまちなみ景観への円滑な転換を図ることが重要であることから、敷地内緑化の促進や道路空間の緑化、現況の地形や植生を生かした面的整備の促進等により、憩いとやすらぎを感じられるような新しいまちなみ景観の形成を図ります。

☞関連するWSの取組アイデア ●地域文化を高める

(参考) 地域別ワークショップにおける主な地域のまちづくりの取り組みアイデア

	市民	協働	行政
道路	●交通マナー遵守徹底	●歩行者優先の道路づくり	●歩行者優先の道路づくり● ●渋滞対策
公共交通	●新しい移動手段の検討	●新しい移動手段の検討●	●くるりんばすの利用向上●●
安全・安心	●防災意識の啓発		●防災意識の啓発
土地利用		●誰もが便利な施設整備 ●駅周辺の再開発	●誰もが便利な施設整備 ●駅周辺の再開発
暮らしやすさ	●地域のコミュニティづくり	●学生と共に進めるまちづくり ●地域のコミュニティづくり●	
景観(歴史・文化)		●地域文化を高める	●地域文化を高める
公園	●利用マナーの向上	●公園の美化● ●公園の美化のP R ●地域の公園利用ルールづくり ●補助事業の活用	●公園整備●
緑・水	●市民ができるイベント開催 ●生物多様性への配慮	●愛着がもてる体験や取り組み ●田・畑の保全だけでなく活動もセットで考える。●	●親水スポットの整備●

※地域のまちづくりの取り組みアイデアについては、道路や公園等の分類ごとに、「市民」、「(市民と行政による)協働」、「行政」という取り組む主体を整理しました。

※●は、特に、重要視して取り組むべきアイデアとして、参加者に投票をしてもらった結果を表しています。

(参考) まちづくりについての小学校区別アンケート

	n	低層住宅地区	中高層住宅地区	住宅団地地区	沿道商業地区	住商複合地区	住工複合地区	教育研究開発地区	森林保全地区	森林活用地区	農地・農業振興地区	工業地区
全体	(283)	23.3%	11.0%	39.2%	27.9%	37.5%	3.2%	9.5%	49.8%	39.6%	26.1%	3.2%
西小学校区	(38)	31.6%	10.5%	52.6%	26.3%	42.1%	0.0%	2.6%	55.3%	60.5%	39.5%	2.6%
東小学校区	(22)	27.3%	4.5%	45.5%	40.9%	40.9%	13.6%	13.6%	54.5%	50.0%	31.8%	4.5%
北小学校区	(41)	22.0%	9.8%	36.6%	14.6%	41.5%	2.4%	9.8%	48.8%	31.7%	24.4%	4.9%
南小学校区	(50)	28.0%	4.0%	54.0%	24.0%	40.0%	8.0%	12.0%	42.0%	42.0%	34.0%	8.0%
相野山小学校区	(5)	40.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%	20.0%	60.0%	0.0%
香久山小学校区	(24)	16.7%	8.3%	41.7%	41.7%	33.3%	0.0%	0.0%	58.3%	58.3%	25.0%	0.0%
梨の木小学校区	(29)	6.9%	27.6%	20.7%	31.0%	58.6%	0.0%	10.3%	51.7%	44.8%	13.8%	3.4%
赤池小学校区	(48)	20.8%	18.8%	29.2%	22.9%	20.8%	2.1%	8.3%	50.0%	20.8%	12.5%	0.0%
竹の山小学校区	(26)	26.9%	3.8%	23.1%	42.3%	34.6%	0.0%	19.2%	34.6%	23.1%	23.1%	0.0%
男性	(112)	31.3%	16.1%	29.5%	28.6%	31.3%	5.4%	11.6%	47.3%	38.4%	28.6%	7.1%
女性	(167)	17.4%	7.8%	46.7%	28.1%	41.9%	1.8%	8.4%	52.7%	40.7%	24.6%	0.6%
18歳未満	(127)	23.6%	15.7%	37.8%	28.3%	40.9%	5.5%	11.8%	52.0%	33.1%	29.9%	5.5%
18～59歳	(116)	20.7%	6.0%	41.4%	25.0%	36.2%	0.9%	6.9%	48.3%	44.8%	24.1%	1.7%
60歳以上	(35)	31.4%	11.4%	40.0%	40.0%	31.4%	2.9%	11.4%	54.3%	48.6%	20.0%	0.0%
市内在住	(230)	24.3%	10.9%	42.2%	28.3%	40.4%	3.5%	9.1%	49.1%	42.6%	27.0%	3.5%
市外在住	(48)	18.8%	8.3%	27.1%	29.2%	25.0%	2.1%	10.4%	54.2%	27.1%	22.9%	2.1%

※アンケート開催概要

・令和元年6月30日

にしんわくわくミライ会議

・令和元年7月6日

にしんわいわいフェスティバル

・令和元年9月15日

第18回にしん夢まつり

・令和元年10月24日

地域別ワークショップ第1回欠席者
事前意見

問：20年後、あなたにとって○小学校区はどのようなまちになってほしいですか。

全体より10ポイント以上高い項目	■
全体より5ポイント以上高い項目	■
全体より5ポイント以上低い項目	■
全体より10ポイント以上低い項目	■